

今号は、平成27年秋以降に研究発表を行った学校を中心にその成果と様子について報告します。また、熱海の合宿に於ける春期研修及び夏季大会についての話し合いも合わせて報告します。

<研究発表会>

東京都板橋区立第一小学校

単元内自由進度学習における学習の協同性について

板橋区立板橋第一小学校長 湯澤 斉之

平成23年度から始まった本校の「単元内自由進度学習」（以下、イッチー学習と呼ぶ）は平成25年度に研究発表を行い、それ以降2年続けて自主研究発表を行ってきた。今年度も10月16日に、上智大学教授・澤田稔先生をはじめとして、岐阜聖徳学園大学教授・成田幸夫先生、東京学芸大学非常勤講師・佐野亮子先生、台東区立教育支援館学校教育情報室長・佐久間茂和先生にご来校いただき、研究の成果を発表することができた。

研究発表会の協議会では1・3・5年生の観察児童について、日頃の学習の様子や当日どのように学習していたかなど、写真を提示しながら報告がなされた。

まさに一人一人の児童に焦点を当てた「個性化」された協議会となったのは5年間の成果と自負している。

ところで今年度の研究は、「児童がイッチー学習の何を評価しているのか」を明らかにした平成25年度の意識調査に基づいている。この結果について報告したい。

調査時期は平成25年7月と12月、調査対象は3年生から6年生の児童234名、調査方法は担任を通しての記名式質問紙法である。なお、7月と12月に行われたアンケートは同じ質問で行い、2回の変容をt検定により有意差を調べている。



詳細は省くが、加算点の方法でサンプルを「学習の積極性」上位25%と下位25%に分け、それぞれのグループがどのようにイッチー学習を評価しているかを調べてみた。すると、「コースを選んで勉強できるので楽しい」「好きな場所で勉強できるのがよい」「友達といっしょに勉強できるところがよい」では、両者に差がなく、全ての児童が高い評価を示していることが分かった。また「友達といっしょに勉強できるので楽しい」という質問では7月のプレテストと12月のポストテスト（その間に1回のイッチー学習を実施）で98.9%の確率で有意差が認められ、評価がプラスにシフトしている。

本校はオープンスペースの学校である。そのためイッチー学習では、教室の机を離れて自由に動き回り、時にはヒントコーナーへ行き、時には課題を解決するために様々な仕掛けの用意された空き教室で学習することとなる。またオープンスペースには丸い形や六角形の形の机が配置されており、そこに座る児童は自然に斜め横に座る「隣り」の児童と頭を並べて学習する姿勢となる。つまり、本校ではオープンスペースや学習用の家具そのものが、「友達が何をやっているか」という情報を共有しやすい学習環境を提供している。このような学習環境では自然発生的に「協同学習」が成立し、時に友達から教えてもらったり、友達といっしょに考えたりする学び合いが随所で見られるようになった。

問題解決型・探究型・協同学習の導入が叫ばれている。本来、単元内自由進度学習は個別学習であるため、一見「協同学習」とは逆に思える。しかし実際はそうでないことが分かった。むしろ自らの意思で共に学ぶ相手を決定し、何を共に学ぶかをチョイスし、必要に応じて共に学ぶ友達をチェンジし、最終的に自分の学習に戻っている。

これこそアクティブ・ラーニングであり、コンテンツよりコンピテンシーを意識した学習であると考える。

イッチー学習はドリル学習ではないことを強く認識する調査となり、学習の協同性についての示唆を獲得できたことが、その後の大きな自信となった。



東北大会公開研究会を終えて

仙台市立広瀬小学校 鈴木美佐緒

12月4日に東北小学校生活・総合的な学習教育研究協議会東北大会が仙台で行われた。

『地域の一員として主体的に関わり、共に生きる力を育む生活科・総合的な学習の時間』を研究主題とし、単元づくり・授業づくりに取り組んできた。過去3年間の授業検討会での成果と課題を踏まえ、本年度、広瀬小学校が授業を公開した。

広瀬小学校は、生活・総合的な学習の研究をスタートとしてから8年目になるが、昨年度から学級単位で単元を開発する学級総合に取り組み、今年度は生活科でも学級ごとに教師が子供の実態に応じたカリキュラムを作成し、実践している。

公開授業では、約500人の方々に参観いただき、意見交換を行った。また、奈須先生、猪股先生の他、たくさんの講師の先生方にご指導をいただいた。



「学校近くの木材店にインタビューに行ったよ。帰りに木材をもらったよ。」

【先生方の公開を終えての感想】

- ◆初めての学級総合で、不安なことが多くありましたが、コーディネーターの美佐緒先生の支援のおかげで、子供たちの成長を実感することができました。子供たちだけでなく、教師も協同的であることが大事だということが分かりました。(村上竜彦)
- ◆初めての総合で、奈須先生の「総合こそ授業づくり」の言葉を思い出しながら、みんなで協力できるように個を大事に考えてきました。(細川高宏)
- ◆この1年、自分に不安を少しでも自信に変えたくてやってきましたが、そのことが子供たち自身の学びの質を変える大事な研修になりました。苦にならずにできるようになってきたことが、私としては一番嬉しいことです。(本木りゑ)
- ◆初任で広瀬に赴任して、初めての総合で訳も分からないままスタートしました。子供の願いを大事にすることで、子供が意欲的に活動に取り組む姿をたくさん見ることができました。自分事になるためには、教材研究や準備がとても大事だと実感しました。奈須先生の「やりたいことを材にする」というお言葉を聞いて、来年の材は、自分なりに探してみたいです。(加藤春菜)
- ◆次年度は、今年、試行錯誤して取り組んだものを確かなものとして、4月からしっかり指導していきたい。自分も子供との授業が楽しいと思っています。(角田麗圭)
- ◆昨年度、学級総合を経験させていただき「自分が動かなければ何も始まらない」ということに気付かせていただいたおかげで、私自身も『自分事』として取り組むことができました。(星知美)

研究主題「楽しい学校」づくりへのアプローチ ―三つの力の育成をめざして―

岐阜聖徳学園大学附属中学校 教諭 河田 康皓

10月9日、岐阜聖徳学園大学附属小学校で『楽しい学校』づくりへのアプローチ～三つの力の育成を目指して～を主題とする公開研究会が行われ、本学教育学部の学生を中心に300名余が参観した。

附属小によれば、「楽しい学校」とは「子どもが学校生活に喜びを感じ、満足できる学校」であり、その実現のために「自分の力でできた喜び」「新しいことを発見できた喜び」「仲間と共につくりあげた喜び」が大切だとして、そのために

- ・自分から積極的に対象と関わり、進んで課題をみつけていく力
- ・自分で考えた課題を解決していくために、思考を深めていく力
- ・仲間と関わり議論しあい、追及して考え（作品）を仕上げていく力

の三つの力の育成を中心に実践研究を進めていた。公開されたどの授業でも、子ども同士が話し合い、協力することによって目標を達成しようとする姿が数多く見られた。また、学年が上がるにしたがって話し合いのスキルが増し、三つの力を育成するという目標のための「手段」としてアクティブ・ラーニングを取り入れ、日々の学びの中で充実した言語活動に留意していることが見て取れた。たとえば6年生の情報科「ロボットで課題をクリアしよう」では、数種類あるセンサーの中から本時の課題であるラインに沿ってロボットを自動操縦させるために必要なセンサーを選択しプログラミングする学習が公開された。トライ・アンド・エラーの中からグループ内で意見交換し、その結果をiPadで撮影して解決方法をパワーポイントでまとめて発表していた。子どもの論理的思考をICT機器を活用することによって体系的にまとめ、他のグループの方法を参考にしながら課題解決していく様子は充実したものだった。



授業公開後には、指導に携わっている本学教育学部の各教科専門の教員がコーディネーターとなって研究協議が行われた。教育学部の附属学校としての特色を活かし、大学教員の継続的な指導を受け、その実践を学生が参観して実践的な指導力を体感していくという学びの相乗効果が生まれつつあるとも実感した。

私が在籍している附属中学校では、自ら学ぶ力を育成するために単元内自由進度による学習パッケージの開発と、教科センター型校舎の学習空間を活かした一人学びを行っている。今回参観した附属小学校の実践は、主体的な授業参加と一人一人の資質・能力の育成に大きな影響を与えるものとなっており、今後、中学校のパッケージ学習と連動させることによって、小中が連携した附属学校としての可能性を強く感じさせた。私自身、附属の一員として今後より一層連携を深め、未来を担う児童生徒が本学園から多く羽ばたいていくよう努力を続けていきたい。

<熱海宿泊研修報告>



新年を迎え1月10日（日）・11日（月）の二日間にわたり、熱海において事務局会を実施しました。例年行っている合宿研修を、今年は夏の全国大会に向けて集中的にその内容を協議するため実施しました。

奈須先生より学習指導要領の改訂に向けての情報提供の後、3月26日（土）に開催する春季研究会の内容、そして、日本個性化教育学会第9回全国大会「東京大会」について熱心に話し合われました。

春季研究会のテーマは、「浅沼先生とともに個性化教育をふりかえる ―浅沼先生のご逝去を記念して―」また、夏の東京大会のテーマは、「個性化教育から見たアクティブ・ラーニング」と決まりました。

それぞれの詳細につきましては、案内及び下記に掲載しました大会要項（略）をご覧ください。なお、合わせて開催の教員免許更新講習（選択）は、8月19日（金）～21日（日）の予定です。



日本個性化教育学会第9回全国大会〔東京大会；上智大学〕第一次案内

テーマ「個性化教育から見たアクティブ・ラーニング」

1. 期日 平成28年8月20日(土)・21日(日)

※教員免許更新講習(選択)は8月19日(金)～21(日)に実施の予定。

2. 会場 上智大学

102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 (JR 中央線、東京メトロ 四ツ谷駅前)

3. 日程

第1日目：8月20日(土)

講演Ⅰ「未定」

講演Ⅱ「未定」

昼食時 ※全国理事会を開催

【分科会A1】「4技能をバランス良く育てる英語教育
ーワークショップを通してー

【分科会B】「市民性教育としての道徳」

【自由研究発表】※学会員であれば、どなたでも発表できます

会務総会

懇親会

第2日目：8月21日(日)

【分科会A2】「4技能をバランス良く育てる英語教育
ーワークショップを通してー

【分科会C】「幼保小連携と生活科・総合を核としたカリキュラムの創造」

【分科会D】「教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースへの授業づくり」

昼食

【対談とシンポジウム】「子どもの事実で授業をつくる

ーカリキュラム・マネジメントを超えてー

＜事務局会への問い合わせ・連絡先＞

庶務部長 佐久間 茂和

〒338-0013

埼玉県さいたま市中央区鈴谷 3-9-14-510

TEL 048-678-1681

e-mail sakuma.a@s7.dion.ne.jp

日本個性化教育学会ホームページ

<http://koseika.com/>

日本個性化教育学会 第26号

平成27年1月24日発行

編集責任者 事務局長 奈須 正裕

編集 広報部 多田 信夫